

お互いさま

otagaisama

恵みあい、助けあう

ケアハウス 米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター



特集

「米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター」開設

多角的な支援で
地域と共に暮らしやすいまちをつくる

クローズアップ

介護老人保健施設 いなば幸朋苑

介護のICT化で進む負担軽減や業務効率化

キラキラ働き人

「第14回AJCC」に選手として参加

介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑 安達 晴香さん

地域密着型介護老人福祉施設みなと幸朋苑 岡 梓さん

錦海リハビリテーション病院 篠岡 さくらさん

ケアホーム西大井こうほうえん 小笠原 秀明さん

2024 October

季刊誌(年4回発行)

NO. 14



社会福祉法人 二つほりえん



『米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター』開設

地域の皆さんの相談をうかがい、医療や福祉、行政などと連携して当事者やご家族に必要な支援につなげます

策やお金の管理、介護保険の使い方、退院後の生活のことなど、開所時間外でも対応できるよう 24時間 365日電話相談が可能です。「相談を受けて訪問してみたら、家族も含めた複合的な支援が必要ないケースも多いです。さまざまな視点を持った専門職による総合的なアセスメントを行っています」と足立さん。最近注目されるヤングケアラー問題のように、介護する側にも困難があるなど、高齢、障がい、子育て、生活困窮といった問題が絡み合い、複雑化しているケースは珍しくありません。こうした世帯には、高齢者の方だけでなく世帯全体で適切な支援を受けられるように関係機関と協力して課題の解決を図っています。

また、子どもから高齢者まで切れ目のない重層的な支援を行えるように、担当圏域内の障がい者施設、児童養護施設とも連携。それぞれを運営する3法人で協力して「なんでも相談電話」を開設し、幅広い世代のさまざまな困りごとの相談を受け付けています。「最近はお金の問題や、65歳以下の終末期の方とご家族のグリーフケア（遺族ケア）の相談が増えていくように感じます」と相談傾向を話す足立さん。包括センターの利用対象は、65歳以上の高齢者やその支援にかかわっている方、そして65歳未満でも介護保険の特定疾病に該当する40歳以上の人も利用できます。「包括センターは、高齢

多角的な支援で地域と共に暮らしやすいまちをつくる

担当圏域が増え、新体制で支援
地域包括支援センター（以下、包括センター）は、地域の高齢者の皆さんが、健康で安心して暮らせるように、総合相談をはじめ、介護予防、権利擁護、地域の支援体制づくりなどを行う施設です。こうほうえんでは、行政の委託を受けて米子市内の2か所と鳥取市内の2か所で包括センターを設置・運営しています。

このうち、米子市の『ケアハウスよなご幸朋苑』内にある包括センターは、今年7月1日から担当圏域が広がり、名称も『米子市住吉・加茂地域包括支援センター』から『米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター』へと変更になりました。もともとの担当圏域の加茂地区・河崎地区・住吉地区に、新たに義方地区が加わり、人口3万5000人弱、高齢化率

者の方だけが利用するものではないことを広く知ってもらいたいです」と地域への啓発活動も行っています。また、認知症の方が行方不明になった時のための徘徊模擬訓練や、小学校での認知症キッズサポート養成講座などを開催し、困った時にすぐに思い出して相談してもらえるように、地域に向いて普段から関係を築いています。「私たちは、地域の方に課題を教えてもらい、活用してもらおうことで育てられています。住民の皆さんが、『この町で過ごして良かった』『米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センターの担当地域で良かった』と思っただけの地域を目指しているのです、何でも相談してください」と足立さんは笑顔で呼びかけます。



今年7月1日、『ケアハウスよなご幸朋苑』内に名前を新たに開設



保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの資格を持つ職員が支援します



相談は電話でも来所でも。担当圏域が広がり、相談件数も増えています



地域の公民館などに出かけて高齢者福祉やフレイル予防の講座も開催

利用者の声

転んで起きることができなくなったときなど、困ったときにすぐに対応していただきました。

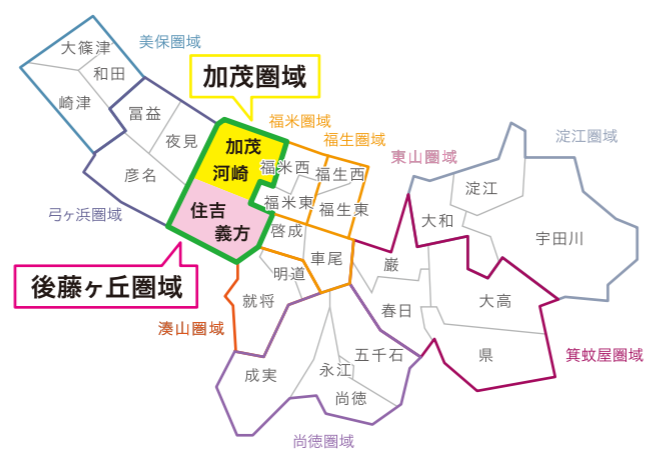
介護保険をどう使うのかよくわからなかったのですが、丁寧に説明してくれ、とても助かりました。

福祉サービスについてどこに相談したら良いかわからなかったが、親身になって話を聞いてくれ、きちんと合ったプランを考えてくれました。

米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター
鳥取市米子市上後藤3-3-3 ケアハウスよなご幸朋苑1階
TEL.0859-48-1365 相談/24時間365日対応可

ホームページはこちら

米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センターの担当エリア



お話を聞いた人

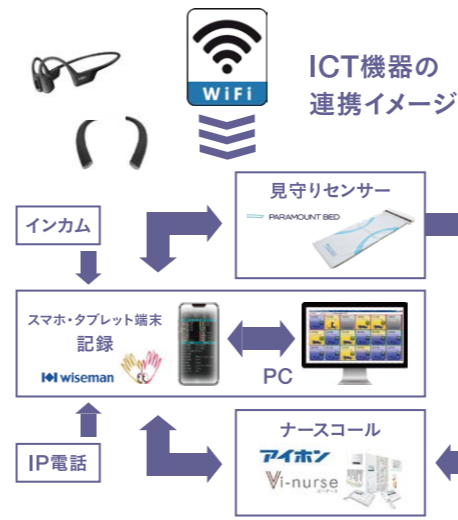
米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター長 足立育世さん

こうほうえんに入職して30年にわたり、さかいエリアで相談員を務める。昨年から『米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター』にセンター長として赴任。

29%超のエリアをカバーしています。「市街地なので、米子市内の他の地区と比べても住民の数が多いいエリアです。しっかりと支援の手が行き届くよう、職員を9名から15名に増員して対応しています」と話すのは、センター長の足立育世さんです。

高齢者本人や家族の課題解決に取り組む
国の規定では、包括センターには保健師、社会福祉士、主任ケアマネージャーを置くことが原則定められていますが、同包括センターは、これらの職種を規定の人数以上置いているほか、3名の管理栄養士も配置して、さまざまなケースに対応できる体制を整えています。事実、担当圏域が増えたことで、1日の相談件数も増加し、その内容も幅広くまりました。内容はさまざま、高齢者の方の孤独対

介護のICT化で進む 負担軽減や業務効率化



「こうほうえん」におけるICT機器導入の推移

2020年
理事長の意向によりICTシステム構築の取り組みを開始（法人本部経営企画部）
ICT導入検討プロジェクトなど、各種委員会を発足
主に記録ソフト、見守りセンサー、インカムなど、現場との調整・デモを繰り返し実施、導入を検討
東京エリア（うきま、上石神井の特養、SS）にICT機器導入とWi-Fi等の通信環境整備実施

2022～2023年
なんぶエリア、いなばエリア（施設系）にICT機器導入とWi-Fi等の通信環境整備実施

2024～2025年
さかいエリア、よなごエリア（施設系）にICT機器導入とWi-Fi等の通信環境整備実施予定

2025年～
未導入事業所への機器導入、更新など検討

見守りセンサー （眠りSCAN）



マットレスの下に設置されたセンサーが、寝返りや呼吸、心拍、睡眠状態を測定し、ご利用者のリアルタイムの情報をパソコンやスマホ端末から確認できます。画面にはご利用者の情報が一覧で表示され、状態に変化があると通知されるシステムです。夜勤の巡回の負担を減らせて、緊急時は迅速な対応が可能です。

インカム （ほのぼのTALK）



首にかけるネックスピーカー型デバイスとスマホ端末を利用したインカムです。両手が空く、耳をふさがらない、軽量、コードがないなど現場の使いやすさを追求した仕様。インカムのボタンをプッシュして発話すると、音声とテキストの両方で情報を一斉共有でき、テキストはチャットに記録されます。

スマホ端末・ 記録システム



ナースコールも各自のスマホ端末で受信できます。誰がコールしているのか画面ですぐに確認ができ、素早い対応が可能です。



ご利用者のケアと同時に食事や排泄、健康状態などをその場で端末に記録できます。入力した情報は、リアルタイムで他の職員と一斉共有される仕組みです。各システムの情報も連動しているので、端末が1台あればご利用者の情報をすぐに確認できます。



『介護老人保健施設いなば幸朋苑』は、1995年に鳥取県東部では最初に開設した施設で「ヘルスケアタウンとっとり」の中核拠点です。1階にはデイケアとデイサービスが入り、リハビリや機能訓練に励むご利用者の姿も見られます。また、毎週土曜日に中学生を対象とした学習支援事業にも取り組んでいます。



多彩なICT機器が業務を支援

ここ数年、業務の効率化やサービスの質向上などを目的に介護業界ではICT機器の導入が進み、国をあげて利用促進を働きかけています。現在、こうほうえんでは2020年よりICT化を進めており、鳥取県東部では、2022年に「いなば幸朋苑」に導入されました。現在、介護老人保健施設（老健）、ケアハウス、デイサービス・デイケア（通所）で次の機器やアプリが利用されています。ケアの記録システム

情報など個人情報データの確認、ご家族との情報共有や面会予約、ナースコールの受信などが可能で、さまざまな業務に活用されています。

手の平にあるスマホで完結できる

「導入から2年、大きな混乱もなく職員たちも使い慣れてきました」と現場の反応を語るのは老健の介護係長、石上純子さんです。「それぞれのスマホからすぐにご利用者の情報を確認できるので便利」と効率化や負担軽減を実感しています。例えば「眠りSCAN」では、睡眠中の状態を把握できるので巡回の回数を減らすことができ、覚醒のタイミングで訪問して転倒・転落の予防などができるようになりました。また、日々のデータを蓄積できるので生活リズムや体調変化を把握でき、よりきめ細やかな介護サービスの提供につながっています。

実は、石上さん自身は情報機器の扱いは苦手なのですが「自分がわからないからこそ苦手な人の気持ちが変わります」とわかりやすく伝えられるようにマニュアル作成なども行ってきました。それぞれのアプリが多彩な機能を搭載しているため「いきなりすべての機能を使いこなすのは難しい」と話しますが、現場の若手職員が

施設紹介

介護老人保健施設 いなば幸朋苑

- 住所 鳥取県鳥取市浜坂228-1
- 電話 0857-23-6611
- 定員 100名
- HP https://www.kohoen.jp/nursingcare/tottori/geriatrichealth_inaba/



介護老人保健施設
いなば幸朋苑



お話を聞いた人



（左）介護老人保健施設
いなば幸朋苑 介護係長 石上純子さん
（右）通所事業 統括（係長）青木康浩さん

『介護老人保健施設いなば幸朋苑』の施設長・金藤大三先生と一緒に

「すぐろく」、ご利用者の睡眠中の寝返りや心拍、呼吸を測定する「眠りSCAN」、ネックスピーカーを利用し職員間の情報を共有するインカムアプリ「ほのぼのTALK」、ナースコール主装置と連携するスマートフォンアプリ「SDPhone」、そしてご利用者家族とのコミュニケーションも可能な情報共有ソフト「MeLL+（メルトラス）」が、介護現場で活躍中です。

当初は複数の端末機器を持ち歩いて対応していましたが、施設の改修を行ってWi-Fi等ネットワーク環境を整え、各システムを連動させてスマートフォン端末（iPhone）に集約できるようになりました。現在、各職員やチームが保持する端末一台で、ケア記録の記入、ご利用者の基本

使い方を提案するなど、主体的に活用していく流れが育まれています。

将来に向けた地道な取り組み

また、これまで紙に記録していたカルテなどの情報を電子化する作業も進んでいます。通所事業統括係長の青木康浩さんは「山積みになっていた倉庫の書類が消え、過去の記録の確認や情報共有が簡単にできるようになりました」と効率化を実感しています。老健でも現在、膨大な紙の記録と格闘中です。「書式が異なるものもあり作業は大変ですが、将来を考えると電子化は必要です」と石上さん。さらに青木さんも「電子化以外にも、システムの改善や法人全体で統一したシステムの構築など、やることはたくさんありますが、トータルで考えてICT化は絶対に必要」と唱えます。

ICTの導入により、職場環境の改善や負担軽減が進み、介護業界の働き方そのものが今後変化していきますそうです。「介護施設は、仕事がついつい暗いというイメージが根深いですが、業界は進化しています。施設は人生を健康に生きるための社会の一機能。明るい場所であると発信していきたいです」と二人は声をそろえます。

「第14回オールジャパンケアコンテスト」とは…

「介護の質の向上と地域との繋がりを目指して」という理念のもと2010年に始まったオールジャパンケアコンテスト(AJCC)。第14回大会は2024年8月6日、高齢者住宅新聞社主催「住まい×介護×医療展2024in東京」との同時開催により、東京ビッグサイトで幕を開けました。全国の介護従事者138名が選手として集い、交流を深めました。

人に評価してもらうこと、人の支援を見ることは視野が広がります!

専門学校時代からAJCCを知っていた、先生方も「良い経験だから機会があれば出場のほうが良い」とすすめていたことを覚えています。今回の課題は、「要介護3のご利用者がトイレに行きたくてナースコールを押した後の支援」で、普段の業務に近いシチュエーションでした。2週間の準備期間には、専門用語の振り返りや、専門用語の振り返りや、協力をしたほか、職場の人が練習に協力してくださり、ありがたかったです。本番では、

普段、自分の支援を人に見られることがないため緊張しましたが、丁寧な声かけや動作を心がけて精一杯挑みました。講評はなるほどと思う内容で、また、他の選手のケアを見学できたことはまさに「百聞は一見に如かず」で、病院と施設のケアの違いを知ることができ、日々のケアの見直しにつながっています。今回の経験で得た新しい視点を、今後のケアに生かしていきたいです。



AJCC実技の様子



排泄分野 B部門

プロフィール

錦海リハビリテーション病院 介護福祉士

しのおか 篠岡 さくらさん

米子市内の高校の看護科を経て、YMCAの介護福祉科に進学。こうほうえんは学生時代の実習先。卒業後、2020年に新卒で入社。

「第14回AJCC」に選手として参加した職員にインタビュー

こうほうえんからは「認知症」「食事」「排泄」「口腔ケア」のB部門(実務経験年数5年未満)に計4名の職員が参加しました。普段、職員たちはご利用者と一対一で接するので、人に介護技術を披露したり、他者の支援を見たりする機会はあまりありません。大会をきっかけに、より質の高いケアの提供に意欲を見せています。

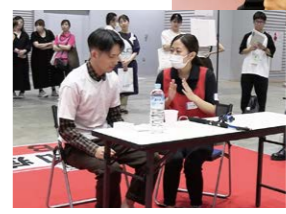
刺激を受けた大会出場。受賞は自信になりました

上司からのすすめがきっかけでAJCCに出場しましたが、全国の介護従事者と交流できたことは大きな刺激になり、とても良い経験になりました。今年度の認知症分野/B部門の課題は「若年性認知症の方がご自宅から施設に向かわれるまでの介護」で、ご利用者の年齢設定は58歳と、普段の介護ではあまり接する機会がない世代。準備期間では上司や先輩に相談し、練習にも付き合っていたので

改めて自分の介護を見直す機会になりました。本番はとても緊張しましたが、若年性認知症への不安をくみ取り、自尊心を損なわない声かけを意識して、普段の力を出し切れたと思います。賞をいただいたことに感謝するとともに、自分の介護を認められたことは自信やモチベーションにつながりました。今回の経験を踏まえて認知症の勉強を深め、より良い介護に生かしたいと思っています。



AJCC実技の様子



認知症分野 B部門 優秀賞受賞

プロフィール

介護老人福祉施設なんふ幸福苑 介護福祉士

あだち はるか 安達 晴香さん

境港総合技術高校の福祉科で学ぶ。2020年にこうほうえんに入職し、『なんふ幸福苑』に勤務。特別養護老人ホームを経て、2年前からショートステイを担当。



AJCC実技の様子



口腔ケア分野 B部門

プロフィール

ケアホーム西大井こうほうえん 介護福祉士

おがさわら ひであき 小笠原 秀明さん

専門学生時代にボランティアスタッフでAJCCに参加。また、施設見学で訪れた『西大井こうほうえん』の明るい雰囲気に惹かれて、2020年に新卒で入社。

あえて苦手な口腔ケアで出場! 今後に生かします

私が働く施設では、口腔ケアに力を入れています。が、歯ブラシや指の使い方が難しく、私自身は苦手分野です。でも、この機会に苦手を克服したいと口腔ケア部門へのエントリーを決意しました。今年の課題は、「認知症でうがい動作を忘れている方の支援」。普段の支援でも似た状況はあり、モデリングとあって、実際にうがいの動作をお見せして視覚的にお伝えしています。施設長たちにも協力してもらい、何

度も練習して、本番でもモデリングを行いました。大きな会場に緊張して記憶もおぼろげです。「もっとできることがあった」と思うのですが、自分の支援を他者に評価してもらったことや、他の選手の支援を見られたことは勉強になり、とても有意義な時間を過ごせました。この経験を自分の成長に生かすとともに、職場の人とも共有して施設全体のケア向上に努めたいです。



AJCC実技の様子



食事分野 B部門

プロフィール

地域密着型介護老人福祉施設みなと幸福苑 介護福祉士

おが あずさ 岡 梓さん

境港市内の高校で介護士の資格を取得。こうほうえんは実習先などで親しみがあり、2021年に入社。今年からユニットリーダーを務めている。

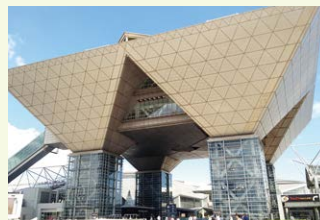
たくさんの気づきを得た貴重な経験でした!

私が働く施設では、地域やご家族とのかかわりを大切に、家庭的な雰囲気の中でご利用者がその人らしい生活を送れるように支援しています。今回の食事分野の課題は、「右半身に麻痺があり、誤嚥リスクが高い方におやつを食べていただく」というもの。普段から誤嚥を防ぐ工夫をしていて、「いつものケアで大丈夫」という先輩職員のアドバイスに力をもらい大会に臨みました。本番では力を

出し切りでしたが、講評を聞いて「もっとできることがあった」と気づかされ、とても良い経験になりました。また、他の選手のケアを見たことで、改めて自分のケアを見直しています。無意識にあった固定観念や慣れを払しょくし、基本に立ち返って勉強し直しています。ご利用者一人ひとりに合ったケアを実践するとともに、ユニットリーダーとしても、みんなをまとめていけるようになりたいです。

「第14回オールジャパンケアコンテスト」開催

2024年8月6日、「第14回オールジャパンケアコンテスト」が東京ビッグサイト南1ホール(東京都江東区有明)にて開催されました。オールジャパンケアコンテストは、「家族、地域とそれぞれの密接なつながり「絆」を大切に」を理念に、2010年の開始から多くの方のご協力を得ながら今回で14回目を迎えました。この大会は、全国から集まった選手の皆さん(介護従事者)、地域の方、介護サービスご利用者やそのご家族など介護に携わる方々と一緒に、これまでの介護を見つめ直し、これからの介護を考え実践する機会を提供することを目的としています。主管は昨年に引き続き、「SOMPOケア株式会社」、「株式会社やさしい手」、「東京ロイヤル株式会社」と弊法人が務めました。また今大会は、高齢者住宅新聞社主催「住まい×介護×医療展2024in東京」との同時開催により、東京ビッグサイトという今までで一番大きな会場での開催となりました。



会場の東京ビッグサイト(江東区有明)

大会前日には前夜祭を、東京ベイ有明ワシントンホテルを会場に開催。オリエンテーションを兼ねて、参加される選手の皆さんが分野ごとに分かれ、アドバイザーの先生方と一緒に食事をとりながら親睦を深めていただきました。



前夜祭会場の東京ベイ有明ワシントンホテル(江東区有明)

コンテスト当日には、会場実技として138名の選手の皆さんが、「認知症」「看取り」「食事」「入浴」「排泄」「口腔ケア」「外国人介護職員」の7分野に分かれて課題に応じた介護技能を披露し、その実技に対して専門のアドバイザーに助言、評価をしていただきました。また、動画撮影投稿については養成校9校養成校学生38名を対象に実施いたしました。



「認知症部門B」で優秀賞を受賞された
安達晴香介護福祉士(なんぶ特養)の実技



集合写真

大会当日は、通常規模の開催に戻ったこともあり、昨年以上に選手の皆さんの情熱と観客の皆さんの声援を大きく感じられた大会になりました。

「第14回AJCC」
公式HP



Instagram



寄付者一覧

※令和6年6月～8月にご寄付をいただいた皆さま

寄付金合計額:345,600円

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

●坂田臣司様/20,000円 ●奥田芳正様/30,000円 ●波木博信様/5,600円 ●石田和弘様/200,000円 ●こおげ建設様/10,000円 ●その他/80,000円
<西東京エリア>●むかいほら保育園卒園児保護者様/ミニカー、ままごと、パズル等玩具、レゴブロック、LaQ ●むかいほら保育園卒園児保護者様/0歳用玩具、パズル

ボランティア一覧

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます ※令和6年6月～8月にボランティアにご参加いただいた皆さま

<さかいエリア>●傾聴ボランティア…境港市ことぶき会6名 ●習字教室・歌・体操…日赤奉仕団3名 ●紙芝居・歌・楽器…湯の浜一座とゆかいな仲間たち6名 ●フラダンス…カーレーホク10名
<よなごエリア>●米子ええがん体操・交流…米子市ボランティアセンター3名 ●草取り…米子市ボランティアセンター2名 ●話し相手・車椅子清掃・片付け等…県社協ボランティア体験事業/米子西高2名・米子南高1名・境高2名 ●食事準備・洗車・車いす掃除・レク参加・食事形態試食会…県社協ボランティア体験事業/米子西高4名 ●話し相手・レク参加・片付け等…県社協ボランティア体験事業/米子西高・南高9名
●話し相手・体操参加・車椅子清掃…県社協ボランティア体験事業/米子西高・境高2名 <なんぶエリア>●支え合いカフェ補助…仲田みどり様、乗田千恵様、佐藤陽子様、西山直子様、斉木ルミ子様、石田喜和子様、尾原稔枝様、梅木恭美様、足羽恵美子様、勝部尚子様 ●いしい交流広場補助…仲田みどり様、乗田千恵様、尾原稔枝様、斉木ルミ子様、石田喜和子様、足羽恵美子様、勝部尚子様 ●紙芝居・軽作業・交流・読み語り…秋鹿美美子様 ●活花…斉木明子様 ●フラワーアレンジメント…宇山厚子様、花秀6名 <いなばエリア>●落語…落語ボランティア1名 ●話し相手・配膳手伝い等…県社協ボランティア体験事業3名
●歌の会…紙原歌謡教室6名 ●軽作業…鳥取市社協個人ボランティア1名 <北東京エリア>●園児へのお話し会…おはなしボランティア2名 ●地域家庭への子育て支援…遊ぼう会4名 ●保育士体験…小学生ボランティア43名、中・高生ボランティア5名、保育ボランティア29名 ●Bookuwapuにて…お話しボランティア4名 ●介護美容ボランティア…未来プロジェクト41名 ●こうほうえんまつり…未来プロジェクト10名、似顔絵サークル8名、音楽サークル5名、アクセサリ作家3名、しげんカフェ3名、庚申通り商店街20名、東洋大学3名、帝京大学(看護)29名、日本福祉大学1名、東京家政大学1名、十文字学園女子大学1名、ご利用者家族1名 ●配膳・傾聴…渡邊様 ●傾聴・レクリエーション…帝京大学(看護)1名 <西東京エリア>●園児への読み聞かせ…板橋区小茂根図書館6名 ●保育士体験…中学生職場体験5名、板橋区小・中・高等学校ボランティア87名、中学校職員ボランティア2名 ●植栽活動…住宅ご入居者3名 ●清掃活動…住宅ご入居者2名 ●イベント開催・補助…地域住民12名 ●イベント役員…いたばし総合ボランティアセンター1名、ケアホーム板橋1名 ●歌に合わせて手話を覚える…手話ボランティア2名 <南東京エリア>●絵本の読み聞かせ…おはなしボランティア8名 ●夏まつり(和太鼓演奏)…若竹太鼓7名 ●保育手伝い…小学生ボランティア24名 ●体操他…第一興商3名 ●朗読他…マザーグースの会6名 ●利用者とのコミュニケーション…江東区夏ボランティア7名 ●健康測定会…ファミリー薬局4名 ●三味線・演芸…黒澤様 ●ピアノ演奏会…白井様 ●ジャズコンサート…キャトル4名 ●三味線…黒須様 ●歌・ピアノ・フルート…マママッチレク3名 ●落語・コカリナ…萩野谷様 ●フラワーアレンジメント…小暮様 ●ハンドマッサージ…プラチナ美容塾12名



法人本部事務局

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳1400

TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113

フリーダイヤル:0120-418-658

E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒140-0015

東京都品川区西大井2-5-21 ケアホーム西大井こうほうえん内

TEL:03-6410-7365 FAX:03-6410-7364



2014年度日本経営品質賞大規模部門
(鳥取地区/介護)受賞



こうほうえんはISO9001-2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービズ日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索

https://www.kohoen.jp